

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5期第3回相模原市緑区区民会議				
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802(直通)				
開催日時		平成30年11月27日(火) 9時30分～11時20分				
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室				
出席者	委員	17人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	16人(緑区長、緑区副区長、緑区役所区政策課長、他13人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	4人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 市民参加の取り組みについて(情報提供) (2) 緑区のめざす姿(将来像)に向けた課題と方向性の検討について(意見交換) 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は会長の発言 は委員の発言 は事務局の発言)

1 開会

牧瀬会長の司会進行により議事が進められた。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開、配布資料の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行い、傍聴希望者がいたため、傍聴を許可することとした。

2 議題

(1) 市民参加の取り組みについて

事務局から資料のとおり説明があった。

今回、総合計画の構成が変わったことについては何か意図があるのか。
関係部署に確認して後日回答する。

(2) 緑区のめざす姿(将来像)に向けた課題と方向性の検討について

事務局から資料について説明を行った後、追加資料3にある緑区の今後の人口減少・少子高齢化についての説明があった。その後、3班に分かれて、都市計画・都市整備、道路・交通、住環境・生活環境の分野について検討を行った。

追加議論内容として、「緑区の各地区の人口は本当に増加させるべきか、減少しても問題ないと考えるか」についても検討して頂きたい。

次回以降の検討の際に今回の分野の話が出ても問題ないか。
事務局が意見を最終的にまとめるので、問題ない。

以下の3班に分かれて意見交換が行われた。

- 1班 高松委員、長谷川委員、中里委員、高橋委員、道本委員
- 2班 落合委員、今井委員、佐藤委員、齊藤委員、高堂委員
- 3班 中山委員、森川委員、奈良委員、小稲委員、山本委員

各班の意見交換で出た意見(抜粋)

【1班】

人口増加を進めたい。ライフスタイルによる移住・定住を推進する。

子育てがしやすい環境を整備し、人口を増やす。

医療機関の規模拡大が必要になるので、人口は増加せず、そのままの推移でもよいのではないか。

人口を増やすための努力や費用が大変なので、減る前提で考えるのはどうか。

リニアの駅が出来る橋本地区中心のコンパクトシティを目指すのはどうか。

交通インフラを進める。

津久井地域は交流人口の増加を考えるのはどうか。

橋本・城山地区はまだよいが、津久井・相模湖・藤野地区は行政と一体となって考えていくことが必要。

自動運転が可能な道路をいち早く作って移動を楽にしてはどうか。

橋本駅中心に職住をコンパクトにするため、広域道路等の整備が必要。

津久井地域から橋本地区へ行き、都心へのスムーズな移動を可能にしたほうがよい。

藤野地区までの産業道路の開通は絶対必要。

リニアの工事と関連付けて何か行えないか。

道路渋滞を減らすための整備が必要。

交通弱者のためのコミュニティバスの強化が必要。

交通マナーの悪化による事故が懸念されるため、自転車のルールについて、高校生をはじめとした市民に周知することが必要。

行政主導の高齢者が住みやすい集合住宅の整備により、独居で暮らす高齢者を減らす取組はどうか。

地元だけで経済を回すには無理があるのでは。外から商売を呼び込む必要があると思う。

橋本地区の商業地域と津久井地域の自然・観光の両方の生活メリットが出るようにしたほうがよい。

津久井地域を観光スポットとして強化し、定住よりも観光客を増加する考え方もあるのではないか。

放棄してある農地をある程度まとめ、機械を使用した農業を可能するのはどうか。

地区の運動会、文化祭などが出来ているコミュニティを維持し、そのような中での子育て環境の充実を行ってはどうか。

野菜作りが出来るような土と親しむような生き方。

ペットなどと散歩が出来る環境。

外国人居住者へのごみのルールの徹底が必要である。

高齢者になるとごみ出しが苦痛になる人が多くなるのではないか。

津久井地域でスポーツごみ拾いを開催し、楽しみながらごみを拾ってもらったらどうか。

【2班】

移住促進に取り組んでいるが、空き家・空き地の提供が少ない。

人口減少地域の空き家活用住宅整備。

近郊地域の住宅整備。

緑は残した上で、緑区の山間部の限定開発。

子どもから高齢者までが魅力を感じるテーマパーク構想での開発。

人口の流れを作り、首都圏からの人を市内に呼び込むのと同時に中央区・南区の人にも緑区のよさを知ってもらう取組が必要ではないか。

都市への通勤条件はいいのか疑問。

相模原市のイメージが分かりにくい。

リニア中央新幹線の回送線の旅客化をし、串川地区中間駅の設置。鳥屋地区車両基地の観光への活用。

観光拠点の設置。

他市他県へアピールできる、案内したり、連れて行きたくなるような施設の設置。

歩道がない国道では安心して住むことが出来ないので、国道20号線の拡幅。

災害が起こってからではなく事前の防災対策が必要。

間伐、枝打ち、広葉樹・針葉樹も含めた森林を守る取組が必要。

鳥獣被害をどうするのか。

積雪対策（積雪、凍結防止）が必要。

魅力ある食べ物や観光がまだ知られていない。

多くの学生が通っているが、街とのつながりがまだ薄いと感じる。

津久井地域の交通整備。

公共交通の整備。

山間部にふさわしい交通手段として、電動自転車の普及をして欲しい。

津久井広域道路の延伸（最終は藤野地区まで）

津久井地区から橋本駅までのシャトルバスやパークアンドライドを見据えた駐車場の整備。

駅周辺の駐車場、休憩場等の再整備。

コミュニティバスの多機能化。（通勤・通学・各種送迎）

マイカーがなくても楽しめるか。

【3班】

高齢者・子どもにやさしいまちづくりが必要。

世代・ターゲットを絞ることが必要。

ママに優しいまちなどの人口増のためのターゲットを絞ることが必要。

子育てのための人のネットワークなどを創出

高齢者は自動的に増加するので、若者を増やすのはどうか。

若者の雇用の場が必要。

主に若者・外国人の移住を促進する。

外国人・若者などを流入させる環境整備が必要。

外国人居留地などで国際化してはどうか。

自治会を抜ける人が多い。

コミュニティがなくなるので困る。

人口増加のほうが望ましい。

人口増加の意味とは、税収のためか、地域維持のためか、防災等の地域維持等か。

人口は増やしたいが、増やし方が難しい。

昼間・夜間人口の差がある。

人の取り合いをせず、IターンUターンを推進する。

働く場所の創出が課題である。

テレワーク等の中山間地域でも出来る創業支援・環境整備をしたほうがよい。

大沢地区では増えているが、道路、学校のインフラ等の周辺環境整備が必要。

ネットワーク等のインフラ整備が必要である。

在宅の職等SOHO（自宅や小さなオフィスなどを利用して仕事をする働き方）が必要である。

在宅での職を維持させるためのインフラ整備で在宅勤務を促したり、空いている場所を活用したサテライトオフィスの整備が必要。

買い物弱者に対する対応を行う。

地域通貨等の創立が必要である。

農業のための若者の流入。

農業法人などによる農業の集約。

最後に各班からの発表があった。

【1班】

人口について、増やしていきたいと思うが、努力や費用がかかることが課題として挙げられた。移住を促進するためには、仕事、子育ての環境充実と医療の規模を拡大する必要があるのではないかという意見があった。

道路・交通については、自動運転が可能な道路を作った方がよいという意見が挙げられた。橋本駅を中心に移動をコンパクトにするために広域道路の整備が必要であるといった意見や、津久井、橋本と津久井地域を繋ぐ交通の必要性和橋本地区から藤野地区までの産業道路の開通が必要ではないかとの意見が挙げられた。リニアの工事と関連付けて何か出来ないかとの意見も挙げられた。

ごみ出しに関しては、外国人も含めたごみ出しに関するルールの周知徹底を行う

べきであるとの意見があった。また、高齢者にとってはごみを出すこと自体が苦痛になるのではないかという意見も挙がった。また、スポーツごみ拾いというごみ拾いをスポーツとして行っているところもあるので、楽しみながら取組を推進することも出来るといった意見も挙がった。

また、今後、相原高校の移転に伴い、自転車通学が増えることが予想されるので、自転車の運転マナーの周知徹底について、更に行う必要があるとの意見も挙がった。

【2班】

市のイメージが分かりにくいことを入口として意見交換を行い、宿泊施設不足などの課題があるが、ひとつひとつを解決していくことで、各区それぞれの魅力が明瞭化し、子どもから大人までが継続的に魅力を感じるテーマパークのようになることで、人口が増えるのではないかという話になった。

また、バブル時代に計画されたことについて、再考してみることも有益ではないかという意見や、緑区の特徴である自然と共存しながら人口を増やすためのまちづくりが必要であるといった意見もあった。

【3班】

人口を増やす考え方で検討したが、委員の中にはまず現状を維持するべきではないかという意見も出た。また、検討する際には、増やしたい年代や層のターゲットについてポイントを絞って考えてみてはどうかという意見もあった。今までの祭りや消防などコミュニティを維持してきた仕組みを維持していくべきという意見が出た一方で、それも見直す次期もきているかもしれないとの意見も出た。人口を増やしていくには仕事がなければ仕方がないという意見が出た。今までは工場や研究団地など箱物を設置する考え方が多かったが、今の時代はインフラ整備という観点での大きな柱として、自宅で仕事出来るテレワークの環境整備が必要ではないかとの意見が出た。そうすることで、余暇を緑区で過ごしていただくことができ、人口増加に繋がるのではないかとの話が出た。

また、やみくもに呼び込むのではなく、Iターン、Uターンと言われる地域から出て行った若者を呼び込む仕組みを作ったらどうかという意見もあった。他自治体を視察した際に、移住・定住の専任職員を設置して対応していたのを見た。そういったことを参考に、地域に縁のある人をターゲットにするのもいいのではないかという意見が出た。

住みやすい環境を作るといった観点では、買い物難民が発生してきている中で、移動販売などの環境づくりが必要ではないかという意見も出た。

また、農業において、小規模な農地が点在しているが、大きな農地を借り上げ

て、農業法人のようなものを立ち上げてそこへ若者に移り住んでもらう考え方もあるという意見も出た。

意見交換をしながら、まず、さがみはらのイメージ作りをすることが大切だと思う。

今回の意見は事務局でまとめていただきたい。

3 その他

小稲委員から区民会議事務局宛に書面にて質問があった。事務局から回答するものとし、区民会議委員に対しては情報共有をすることとなった。

今回は事務局宛に質問があったので、本来、事務局が回答する書類ではあるが、情報公開・情報共有を目的に、委員に対して配布した。なお、今後、区民会議もしくは会長宛にこういった話が来た場合は、会議内でそのことについて審議するかどうかについて検討した上で、対応するものとした。

次回会議は、平成30年1月頃の開催を予定。詳細は事務局でスケジュール調整した後に通知することとなった。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

（順不同・敬称略）

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	高松 幸子	橋本地区まちづくり会議	出席
	中山 光明	大沢地区まちづくり会議	出席
	山下 利麿	城山地区まちづくり会議	欠席
	落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	出席
	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	出席
	森川 哲郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	草野 寛	相模原市自治会連合会	出席
	今井 俊昭	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	出席
	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	出席
	原 正弘	相模原商工会議所	欠席
	奈良 哲弥	津久井地域商工会連絡協議会	出席
	吉野 賢治	一般社団法人 相模原市観光協会	欠席
	飯塚 侑	公益社団法人 相模原青年会議所	欠席
	渡邊 博明	公益社団法人 津久井青年会議所	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市緑区地域既存住宅リフォーム・改築推進協議会	出席
	小稲 香穂	あざおね社中	出席
学識経験者	牧瀬 稔	関東学院大学	出席
	関司 直也	法政大学	欠席
区民	高橋 朋樹	公募委員	出席
	齊藤 賢一	公募委員	出席
民間事業者	山本 篤史	株式会社KADOKAWA	出席
	道本 晃一	相模湖リゾート株式会社	出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道株式会社	出席
	平本 博久	神奈川つくい農業協同組合	欠席

は会長、 は副会長